

## Y14b TOYAKO マンガ・アニメフェスタでの天文イベント：5年の記録と評価

渡辺謙仁 (北海道大学／札幌宇宙科学研究会)

「TOYAKO マンガ・アニメフェスタ」(以下、TMAF)とは、北海道洞爺湖町において2010年から毎年6月の2日間に行われているマンガやアニメの祭典である。地元住民の手によって企画・運営され、第5回以降の来場者数は5万人を超えている(主催者発表)。温泉街などが丸々コスプレ会場になり、コスプレパレード、痛車と呼ばれるアニメ調の絵が描かれた自動車の展示、同人誌即売会、声優やアーティストによるステージイベント、アニメなどの複製原画展などが行われる。参加者は若い女性のコスプレイヤーや彼女たちを撮影するカメラマンが多いように見受けられる。

著者はこのTMAFにおいて、2013年から毎年計5回、天文イベントを開催してきた。各年のイベントはそれぞれ多様な背景や狙いに基づいていたが、共通するのはホルツマン(2014)の言うような「プレイ(遊演)」を通じた既存の文脈を乗り越えるような学びのステージを構築してきたことである。また、天文講演会を聴きに来るような中高年の男性でも、公開天文台やプラネタリウムに来るような家族連れやカップルでもない、コスプレをする若い女性らに天文に親しむ機会を提供したことは、特筆すべきことである。

天文イベントの参加者に対し、クレスウェルとプラノ・クラーク(2010)による混合研究法に基づき、質と量の両面から天文イベントを評価するように設計されたアンケート調査を実施した結果、天文イベントは普段天文に馴染みがない参加者の多くにポジティブな天文イメージをもたらしたことが分かった。